

ELECTROSTATIC CHARGE IMAGE DEVELOPING TONER

Patent Number: JP63282752

Publication date: 1988-11-18

Inventor(s): HASEGAWA YUKINOBU; others: 04

Applicant(s): NIPPON CARBIDE IND CO LTD

Requested Patent: JP63282752

Application Number: JP19870116800 19870515

Priority Number(s):

IPC Classification: G03G9/08

EC Classification:

Equivalents: JP2547016B2

Abstract

PURPOSE: To remarkably improve the electrifiability and the resolution by constituting the titled toner by the associated particle composed of the primary particle of a polymer having a polar group and the 2nd particle contg. a coloring agent, an electrostatic charge improver and an electrostatic charge control agent.

CONSTITUTION: The prescribed amount of the powdery coloring agent and the powdery charge improver composed of a fluorocarbon, etc., and the electrostatic charge control agent is added and mixed to the emulsion of the polymer which is obtd. by an emulsion polymerization and has the acidic or basic polar group, thereby uniformly dispersing and cohering gradually the primary particle of the polymer and the powdery coloring agent, etc., it grows to the 2nd particle. The obtd. dispersion is further stirred, thereby growing the 2nd particle to the associated particle having the mean particle size of 5-25μ. Thus, the obtd. toner has relatively narrow particle size distribution and a small mean particle size, and is stably obtd. the necessary electrifiability, and remarkably improves the resolution.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

⑫ 公開特許公報 (A)

昭63-282752

⑬ Int. Cl. 4

G 03 G 9/08

識別記号

3 4 4

序内整理番号

7265-2H

⑭ 公開 昭和63年(1988)11月18日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 静電荷像現像用トナー

⑯ 特願 昭62-116800

⑰ 出願 昭62(1987)5月15日

⑮ 発明者	長谷川 幸伸	神奈川県平塚市公所388-1
⑯ 発明者	霜村 浩義	神奈川県平塚市公所388-1
⑰ 発明者	村井 弘一	神奈川県藤沢市大庭5447 駒寄団地45-504
⑱ 発明者	丸山 正俊	神奈川県平塚市夕陽ヶ丘13番6号
⑲ 発明者	丹下 豊吉	神奈川県平塚市浅間町6番3号302
⑳ 出願人	日本カーバイド工業株式会社	東京都千代田区丸の内3丁目3番1号

明細書

1. 発明の名称

静電荷像現像用トナー

2. 特許請求の範囲

(1) 酸性極性基又は塩基性極性基を有する重合体の一次粒子及び着色剤粒子及び帯電向上剤並びに随意帯電制御剤を含有してなる二次粒子の会合粒子であることを特徴とする静電荷像現像用トナー。

(2) 該帯電向上剤がフッ化カーボンである特許請求の範囲等(1)項記載の静電荷像現像用トナー。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、電子写真、静電記録、静電印刷などにおける静電荷像を現像するためのトナー及びその製法に関する。

従来技術

従来、一般に広く用いられて来たトナーは、懸濁重合により得られるスチレン/アクリレート系共重合体粉末にカーボンブラックのような

着色剤、随意帯電制御剤及び/又は磁性体をドライブレンドして板押出し機等で溶融混練し、次いで粉碎・分級することによって製造されて来た(特開昭51-28855号参照)。

しかし、上記のような溶融混練-粉碎法で得られる従来のトナーは、トナーの粒径の制御に限界があり、実質的に10μ以下、特に8μ以下、殊に6μ以下の平均粒径のトナーを歩留りよく製造することが困難である許りか、現像剤にした場合、トナー帯電性及び解像度が低く且つかぶりが発生するという欠点を避けることが困難であった。

本発明の目的

本発明は従来一般に広く用いられて来たトナーの有した上記の欠点を大巾に改善し、しかも新規な製法を用いることによって従来法のトナーよりも安価なトナーを提供することを目的とするものである。

本発明の特徴

本発明の静電荷像現像用トナーは、酸性極性

基又は塩基性極性基を有する重合体(以下「極性基を有する重合体」という)、好ましくは酸性極性基を有する重合体の一次粒子及び着色剤粒子及び帯電向上剤並びに随意帯電制御剤を含有してなる二次粒子の会合粒子であることを特徴とする静電荷像現像用トナーである。

本発明で用いられる極性基を有する重合体の一次粒子は0.05～0.5μ、好ましくは0.1～0.8μの平均粒径を有する熱可塑性重合体の粒子であって、一般に乳化重合法によって好適に得られる。本発明のトナーである上記会合粒子を構成する二次粒子は、0.01～0.5μ、好ましくは0.05～0.1μの平均粒径をもつ着色剤粒子及び帯電向上剤粒子と極性基を有する重合体の一次粒子とがイオン性結合、水素結合、金属配位結合、弱酸-弱基結合、或いはファンデアワールス力等の結合力によって纏集している粒子であって、一般に0.5～5μ、好ましくは1～5μの平均粒径をもっている。

本発明の会合粒子は上記二次粒子が纏集して

劑として必要な色彩を該現像剤に与える着色性の添加剤と旨う意味で用いられるもので、マグネタイトのような磁性体やニグロシン染料のような帯電制御剤のように磁性又は帯電制御性のような着色剤以外の性能を現像剤に賦与する添加剤も現像剤に所期の着色性を与えるならば「着色剤」に含まれるものである。

本発明で用いられる着色剤としては、無機顔料又は有機顔料及び有機染料、好ましくは無機顔料又は有機顔料が用いられるが、一種又は二種以上の顔料又は/及び一種又は二種以上の染料を必要に応じて組合せて用いてよい。

本発明で用いられる帯電向上剤とは、静電荷像現像剤として必要な摩擦帯電量を該現像剤に与える添加剤と旨う意味で用いられるものである。このような添加剤は、上記効果のみならず、該現像剤のチャージアップ現象、定着性、ランニング安定性、クリーニング性にも効果を示すものである。

本発明で用いられる帯電向上剤としては、一

生成した不定形の粒子であって、その平均粒径は一般に8～25μ、好ましくは5～15μ、最も好ましくは5～18μである。

本発明の好適な態様では、上記会合粒子を構成する二次粒子間の接觸部分の少くとも一部、好ましくは二次粒子間の接觸部分の大半が造膜触着している会合粒子が用いられる。

本発明のトナーである会合粒子は、極性基を有する重合体と着色剤と帯電向上剤の合計当り、極性基を有する重合体を20～90.0重量%、好ましくは30～98重量%、最も好ましくは50～95重量%及び着色剤を80～0.1重量%、好ましくは70～2重量%、最も好ましくは60～5重量%含有してなるものである。

本発明で用いられる極性基を有する重合体の好ましい例はステレン類、アルキル(メタ)アクリレート及び酸性極性基又は塩基性極性基を有するコモノマー(以下「極性基を有するコモノマー」という)の共重合体である。

本明細書で「着色剤」の語は、静電荷像現像

剤又は二種以上の帯電向上剤を組み合せてもかまわぬが、その好適な例としてフッ化カーボンがあげられる。

本発明で用いられる帯電向上剤の具体例としては、

商品名「ACCUFLUOR(CFx)n」(旭硝子社製)として市販されている1000、1080、2010、2080、2065などがあげられる。

本発明のトナーは、前記のように、必要に応じ帯電制御剤や磁性体等を含有するものである。このような帯電制御剤としては、プラス用としてニグロシン系の電子供与性染料、その他ナフテン酸または高級脂肪酸の金属塩、アルコキシリ化アミン、四级アンモニウム塩、アルキルアミド、キレート、顔料、フッ素処理活性剤などマイナス用として電子受容性の有機錯体、その他塩素化バラフィン、塩素化ポリエステル、酸基過剰のポリエステル、銅フタロシアニンのスルホニルアミンなどが例示できる。

また、本発明のトナーは、必要により流動化

剤等の添加剤と共に用いることができ、そのような流動化剤としては疎水性シリカ、酸化チタン、酸化アルミニウム等の微粉末を例示でき、トナー100重量部当り0.01~8重量部、好ましくは0.1~1重量部用いられる。

本発明のトナーの好適な製法を例示すれば、以下の通りである。乳化重合により得られた酸性極性基又は塩基性極性基を有する重合体のエマルジョンに所要量の着色剤粉末及び帯電向上剤粒子並びに随意帯電制御剤を添加混合して均一に分散させ0.5~5時間、好ましくは1~8時間搅拌を続けると極性基を有する重合体の一次粒子と着色剤粒子は次第に凝集して0.5~5μの平均粒径をもった二次粒子に生長する。このような分散体を更にそのまま0.5~8時間、好適には1~2時間搅拌を続けると、二次粒子が更に凝集して5~85μの平均粒径をもつた会合粒子に生長する。本発明のトナーの最も好適な製法では、このようにして生成した分散液を、更に極性基を有する重合体のガラス転移

剤にした場合、必要な帯電量が得られ且つそれが安定して、画像において従来品に較べ解像度が著しく向上し且つかぶりの発生が殆んど無いといった優れた効果を奏し、更に粉碎分散を要しない等製法が従来法に較べて簡略化され且つ必要なトナー粒分の収率も高いので、経済性においても優れているといった効果を奏するものである。

以下に実施例により本発明を具体的に説明する。なお、特記しない限り数量は重量によって表示した。

実施例 1

酸性極性基含有重合樹脂の調整

ステレンモノマー(ST)	80部
アクリル酸ブチル(BA)	50部
アクリル酸(AA)	8部
以上のモノマー混合物を	
水	100部
ノニオン乳化剤(エマルゲンB50)	1部
アニオン乳化剤(ネオゲンR)	1.5部

点~ガラス転移点より30℃高い温度に1~6時間、好適には2~4時間搅拌を続けると、二次粒子間の接触部分の少くとも一部が造膜触着した会合粒子が生成する。このような会合粒子は、二次粒子間が造膜触着しているので、貯蔵、輸送、現像剤製造時等に殆んど崩壊することが無いので、静電荷像現像用現像剤としては特に好適である。

本発明のトナーは、鉄、ガラスビース等のキャリアと混合されて現像剤とされるが、トナー自体がフェライト等を既に着色剤として含有するような場合には、フェライト等はキャリアの効きもするので、その場合にはトナーはそのまま現像剤として用い得る。なお、上記キャリアとしては樹脂被覆、好ましくは弗来系樹脂被覆により負の摩擦帯電特性を有する鉄粉が殊に好適である。

本発明の効果

本発明のトナーは、粒度分布が比較的狭く且つ平均粒径が比較的小さいので、静電荷像現像

過硫酸カリウム 0.5部
の水溶液混合物に添加し、搅拌下70℃で8時間重合させて固体分50%の酸性極性基含有樹脂エマルジョンを得た。

トナーの調整 (1)

酸性極性基含有樹脂エマルジョン	130部
マグネタイト	85部
ニグロシン染料(ポントロンS-86)	5部
フッ化カーボン	5部
(ACCUFLUOR(CP) _n ±2010 旭硝子社製)	
カーボンブラック	5部
(ダイヤブラック±100)	

水 880部

以上の混合物をスラッシュで分散搅拌しながら約80℃に2時間保持した。その後さらに搅拌しながら70℃に加温して8時間保持した。この間顕微鏡で観察して、樹脂粒子とフッ化カーボン粒子とマグネタイト粒子とのコンプレックスが約10μに生長するのが確認された。冷却して、得られた液状分散物をブリーフナーロ過、

水洗し、50℃真空乾燥10時間させた。

この得られたトナー100重量部に流動化剤としてシリカ(日本エロジル社製エロジルR-972)を0.5重量部を添加混合し、試験用現像剤とした。

このトナーで用いた上記重合体のTgは56℃、ゲル化度は5%、軟化点は157℃、トナーの平均粒径は12μmであった。

上記現像剤を市販の複写機(キャノン製NP-270Z)に入れ複写を行ったところ、濃度の高い、かぶりの少ない複写画が得られた。また、プローオフ法により帯電量を測定した。結果を表-3に示した。

帯電量絶対値18μC/g以上ではかぶりの少ない解像度の高い画像が得られ、15μC/g以下では不良画像となつた。

実施例3及び4

表-1に示したモノマー組成及び帯電向上剤を用い実施例1と同様の操作を繰り返した。結果を表-2に示す。なお、表-1で用いた略記

トナーの平均粒径は10.8μmであった。このトナーを市販の複写機(東芝製レオドライBD-6140)に入れ、複写を行ったところ、濃度の高い、かぶりの少ない複写画が得られた。結果を表-2に示す。

実施例5

実施例1における会合粒子形成反応時、70℃、2時間保持の代りに60℃加温3時間に保持したところ、粒子成長が制御され収率80%で平均粒径5μmのトナーが得られた。このトナーにより複写試験を行ったところ、非常に解像度の良好で、濃度が高く、かぶりの少ない画像が得られた。

比較例1

表-1に示すように、実施例1の樹脂モノマー組成中酸性極性基モノマーであるAAを添加せず重合した樹脂エマルジョンを用いたところ、会合粒子の成長がなく、試験用トナーが得られなかつた。

号の意味を以下に示す。

B-E-H-A；アクリル酸2エチルヘキシル
B-Q-A；2-ヒドロキシプロピル-N,N,N
-トリメチルアンモニウムクロライドアクリレート

D-M-A-A；アクリル酸ジメチルアミノエチル
実施例5

実施例1と同様の酸性極性基含有樹脂エマルジョンを調整した後、トナー調整時に以下の操作を行つた。

トナーの調整(2)

実施例1の酸性極性基含有樹脂

エマルジョン	18.6部
クロム染料(ボントロンS-84)	1部
カーボンブラック(リーガル880R)	7部
フッ化カーボンウ2010	5部
水	80.7部

以上の混合物を実施例1と同様の操作を行つて試験用トナーを調整した。得られた重合体のTgは52℃、ゲル化度5%、軟化点158℃。

比較例2

実施例1における樹脂エマルジョンをスプレードライヤー(アシザワニロアトマイザー製、モービルマイナー)で入口温度120℃、出口温度90℃、供給量1.5l/min、アトマイザー 8×10^4 rpmの運転条件にて乾燥させ、樹脂を得た。この樹脂60部、マグネタイト85部、ニグロシン染料(ボントロンS-84)5部、カーボンブラック(ダイヤブラックウ100)5部、フッ化カーボン(ACCUFLUOR(CFx)ウ2010)5部を溶融混練、粉碎して平均粒径5μmのトナーを得た。この時の収率は85%であった。

この得られたトナー100重量部に流動化剤としてシリカ(日本エロジル社製R-972)を0.5重量部を添加混合し、試験用現像剤とした。

この現像剤は非常に流動性の悪いものであった。この現像剤を用いて実施例1と同様の複写試験を行つたところ、非常にかぶりの多い画像が得られた。

比較例 8

実施例 1 と同様の操作を行い表-1 に示すような樹脂組成を得て、実施例 1 のフッ化カーボンをのぞいた配合で造粒して平均粒径 12.0 μm のトナーを得た。このトナーを用いて同様の複写試験を行った。結果を表-2 に示す。

複写画解像度評価方法

データクウェスト社テストバターン A R - 4 を複写し、1 μm あたりのライン数を目視確認して解像度の評価とした。本評価方法において表-1 の樹脂組成では、解像度 6.8 以上で良好、8.0 以下で不良と判断できる。

複写画かぶり評価法

村上カラー・ラボラトリー社製 CM - 58 P の反射率計を用いて、光角 $\pm 5^\circ$ にて複写前の白紙の反射率と複写後の非文字部分の反射率を比較し、反射率比にてかぶり度数とした。かぶり度数 0.7 以下でかぶり良好、1.0 以上で不良と判断できる。

樹脂エマルジョン ST	樹脂エマルジョン (ノタ)アクリル酸 エステル		混合体		帯電量 グレーベル(6)	帯電向上剤
	酸性又は塗着性 モノマー	Tg (°)	Tg (°)	グレーベル(6)		
実施例 1	6.0 BA	6.0 AA	8 BQA	5 4.0	5	フッ化カーボン Φ3010 6
	3.60 BA	6.0 AA	2 EHA 6.0 DMAA 2	8 3	2.0	フッ化カーボン Φ3028 5
	3.60 2 EHA 6.0 DMAA 2	8		1.5		フッ化カーボン Φ2010 8
	6.00 BA	6.0 AA	8 AA	5		フッ化カーボン Φ2010 6
	5.60 BA	6.0 AA	8 AA	5		フッ化カーボン Φ3010 6
比較例 1	6.0 BA	6.0 AA	(なし)	—	—	—
	3.60 BA	6.0 AA	8 AA	5		フッ化カーボン Φ3010 5
	3.60 BA	6.0 AA	8 AA	5	なし	

表-2

	トナーの 平均粒径 (μm)	解像度 (ライン)	かぶり度数 (%)	帯電量 ($\mu\text{C}/\text{g}$)
実施例 1	12.0	8.0	0.8	- 28.0
2	9.5	7.1	0.5	- 26.5
8	12.5	6.8	0.6	- 28.2
6	10.5	7.1	0.6	- 25.6
5	5.0	2.5	0.6	- 8.0.0
比較例 1	—	—	—	—
2	8.0	4.5	8.0	- 6.8
8	12.0	6.5	1.0	- 14.6

特許出願人 日本カーバイド工業株式会社

